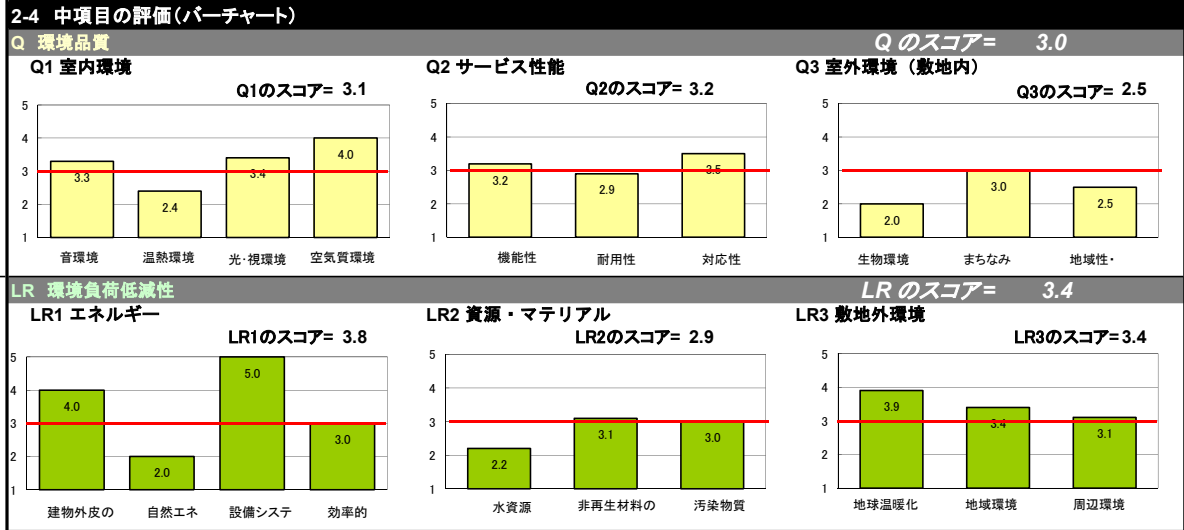
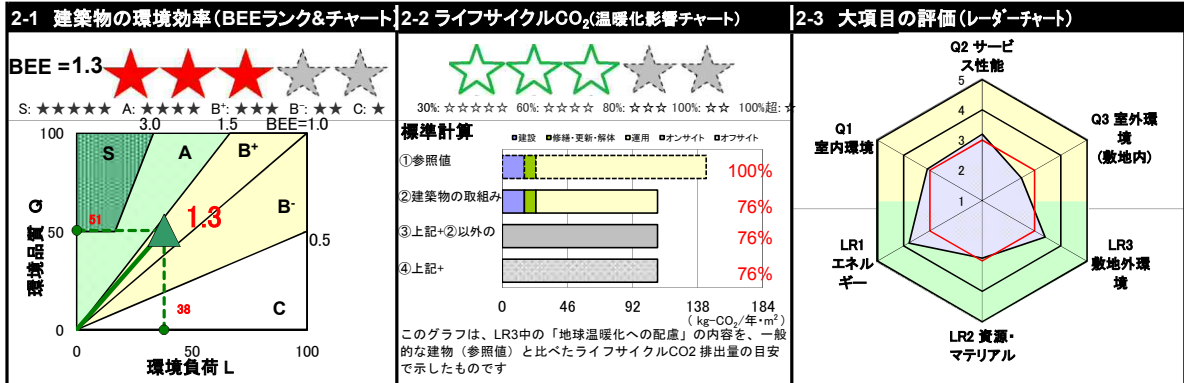


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICH

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ラグーナペイコート寮	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県蒲郡市海陽町二丁目13番8	構造	S造
用途地域	商業地域 準防火地域	平均居住人員	180 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年1月 予定	評価の実施日	2018年3月7日
敷地面積	9,916 m ²	作成者	堀米拓郎
建築面積	1,978 m ²	確認日	2018年3月8日
延床面積	5,330 m ²	確認者	下條信幸



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">39.1 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積 (建築面積及び附属面積) を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		重み係数			
				評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質												3.0	
Q1 室内環境												3.1	
1 音環境												3.3	
1.1 室内騒音レベル												0.50	
1.2 遮音			専用部(居室部)のアルミニウム建具遮音性T-2									0.50	
1 開口部遮音性能												0.30	
2 界壁遮音性能												0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												0.20	
1.3 吸音												-	
2 温熱環境												2.4	
2.1 室温制御												0.50	
1 室温												0.63	
2 外皮性能												0.38	
3 ソーン別制御性												-	
2.2 湿度制御												0.20	
2.3 空調方式												0.30	
3 光・視環境												3.4	
3.1 昼光利用												0.30	
1 昼光率			計算書による(別紙参照)									0.50	
2 方位別開口												0.30	
3 昼光利用設備												0.20	
3.2 グレア対策												0.30	
1 昼光制御												1.00	
3.3 照度			分布図による(別紙参照)									0.15	
3.4 照明制御												0.25	
4 空気質環境												4.0	
4.1 発生源対策												0.63	
1 化学汚染物質			建築材料はF☆☆☆☆使用									1.00	
4.2 換気												0.38	
1 換気量			換気量は建築基準法の1.2倍以上									0.33	
2 自然換気性能			居室面積の1/3以上の開閉可能な窓を確保									0.33	
3 取り入れ外気への配慮												-	
4.3 運用管理												-	
1 CO ₂ の監視												-	
2 喫煙の制御			喫煙室を設ける									-	
Q2 サービス性能												3.2	
1 機能性												3.2	
1.1 機能性・使いやすさ												0.60	
1 広さ・収納性												-	
2 高度情報通信設備対応			100Mbitクラスのブロードバンドが利用できるインターネット環境を提供									1.00	
3 バリアフリー計画		独自										-	
1.2 心理性・快適性												0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)												0.50	
2 リフレッシュスペース												-	
3 内装計画												0.50	
1.3 維持管理												-	
1 維持管理に配慮した設計												-	
2 維持管理用機能の確保												-	
2 耐用性・信頼性												2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振												-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)												-	
2 免震・制震・制振性能												-	
2.2 部品・部材の耐用年数												-	
1 躯体材料の耐用年数												-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②	主要内装仕上げ材は更新必要間隔20年以上を採用する									-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔												-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔												-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			主要な用途の配管はC以上を使用									-	
6 主要設備機器の更新必要間隔												-	
2.4 信頼性												-	
1 空調・換気設備												-	
2 給排水・衛生設備												-	
3 電気設備		②										-	
4 機械・配管支持方法												-	
5 通信・情報設備												-	

3 対応性・更新性				3.0	0.29	3.8	3.8	1.00	3.5
3.1 空間のゆとり				-	-	4.6	4.6	0.50	
1 階高のゆとり			階高3.1m以上確保				5.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率 = 0.257				4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり							3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00			-	
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30			-	2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30			-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	0.40			-	3.4
LR1 エネルギー				-	0.40			-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制				4.0	0.33			-	4.0
2 自然エネルギー利用				2.0	0.17			-	2.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.71	5.0	0.33			-	5.0
4 効率的運用				3.0	0.17			-	3.0
集合住宅以外の評価								-	
4.1 モニタリング								-	
4.2 運用管理体制								-	
集合住宅の評価				3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			-	2.9
1 水資源保護				2.2	0.15			-	2.2
1.1 節水				1.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	1.00			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無								-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.63			-	3.1
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	内装材と設備が錯綜せず、それぞれ取外しが容易に可能	4.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	
1 消火剤								-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
LR3 敷地外環境				-	0.30			-	3.4
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率に基づく換算スコア7.4	3.9	0.33			-	3.9
2 地域環境への配慮				3.4	0.33			-	3.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善			建築設備に伴う排熱は低温排熱にする	4.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制		独自		3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制				3.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33			-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自						-	
3 悪臭								-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制								-	
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			屋外照明器具の照度制限、広告物照明なし	4.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

ラグーナペイコト寮

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:39.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 ラグーナバイコート寮

計画上の配慮事項	
総合	外壁には熱伝導率の低いALC版を採用し、施設全般では高効率な機器を積極的に使用し、エネルギー消費量の削減に取り組みます。
Q1 室内環境	内装建材は概ねF☆☆☆☆を採用し、室内環境を向上させます。
Q2 サービス性能	更新必要間隔は主要内装仕上げ材では20年以上を採用し、主な用途の配管材はC以上を使用する。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内には緑地帯を複数個所設け、良好な景観、熱環境の改善に配慮しています。
LR1 エネルギー	建物内照明はLEDを、設備機器は高効率な機種を使用し、エネルギー消費量の削減を行います。
LR2 資源・マテリアル	節水型機器やエコマーク商品を採用し、部材の再利用可能性の向上に取り組みます。
LR3 敷地外環境	燃焼機器を使用せず汚染物質の発生を抑制します。廃棄物においては分別回収のための空間と設備を設置します。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取り組みがあれば、ここに記載してください。